

自治医大と我が家

こんにちは、女性医師支援担当の17期の石川由紀子です。ブログトップバッターになってしまいました。しばらく何を書こうかなあ？と考えました、自治医大と我が家という題名で書いてみます。ひまなときに読んでみて下さいね！

皆さんと同じように私は6年間自治医大の寮で暮らし、義務年限の9年間と育児休暇の分1年分併せて10年間自治医大を留守にした後、また自治医大に戻ってきました。10年間自治医大に戻ってくることもなく、学生時代に6年間も住んでいたのに、全く知らない土地のように思いました。義務年限の内容が濃すぎて、学生時代の記憶が本当か嘘かも分からないくらいになっていました。こちらに移り住んではや10年・・・今我が家は自治医大のある下野市が子供達の故郷になりつつあります。

私たち家族だけで、計6回入院しています（すみません！大変お手数をおかけしています。）真ん中の子供が14歳まで慢性中耳炎で4回入退院をしました、先日退官された教授にきれいに治して頂きました。真珠腫摘出のために耳小骨を2個取り除いたのに、聴力は正常。アートですよ？。耳小骨は、我が家の冷蔵庫に大事にとってあります。あと1回は長女の骨折。学童保育に私がお迎えに行く10分前に遊具から落ちた時に手をついて、骨折しました。あと1回は私のお産。私の女性の同期生は10人いますが、そのうち1人が産婦人科のお医者さんになってくれました。廊下ですれちがったときに「記念に私が取り上げるから～」と声かけてくれて、それが実現しました。一晩中陣痛で騒いでいる私の腰をさすってくれました。本当に記念のお産になりました。学生時代はまさかこんな日が来るとは思いませんでした。

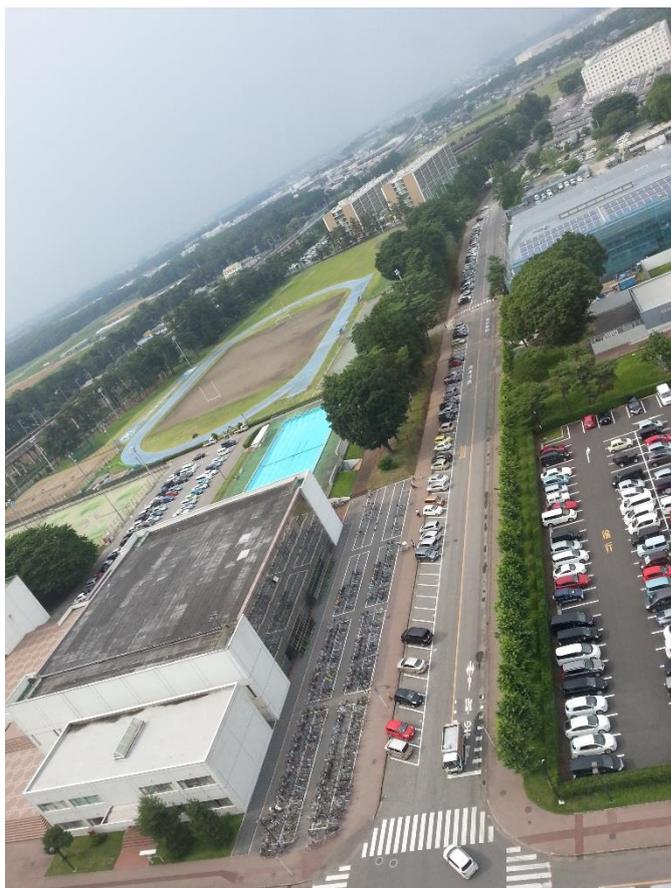
大学にいと、懐かしい人に沢山会います。学生時代にお世話になっていた教員の先生方も、10年もたったら忘れられているかな？と思うと、そうでもなく、「なあんだ原君じゃないか？」と声をかけて下さいます。

オーケストラ部には自治医大に戻っても仕事と育児で忙しく、長らく顔を出せませんでした。2年前から、定期演奏会に1曲だけ参加することにしました。なんと今の部長さんは、私が在学時代の部長さんの息子さんです。ビオラを弾く後ろ姿が同じです。また、自治オケは指揮者も20年前と同じ方なのです。20年経ったのに、声も振り方も全く一緒。またチェロ弾きの彼女は当時看護短大に在籍していた同級生。今は病棟の師長さん。このオケで、石川さんという誰？ってなるので、「はらぼー」と呼ばれます。この部室に入るといっきに20年タイムスリップします。

長男が障がいをもっています。下野市には働きながら預ける場所がなく、同じ悩みを持つ保護者と活動をして、それが実り、今年1月に、放課後に小学生～高校生の障がいのある子供が通園できる場所、下野市こども通園センター「けやき」がオープンしました。「けやきサポーター」という保護者、ボランティアで構成する組織を立ち上げました。社会学

の先生も呼びかけて下さり、15名の1～3年生の自治医大生がボランティアに登録してくれました。この施設の理事さんはこれまで養護学校の校長先生の経歴もあり、自閉症スペクトラム協会の理事もされています。障がいのある子供も大人も預かり、大変な毎日のはずなのに、いつも微笑んでおられる素敵な女性です。先日決起集会を開きました。この理事さんは「お医者さんになる学生さんには、障がいの子供達に触れるのはすごく意味があると思います。子供達をみて初めは驚くと思いますが、そのうちよだれもかわいくなります。」とお話しされました。そうするとその集会の2日後に、医学部1年生が「けやき」に現れました。日常の診療の中でも痛感しますが、目の前にいる患者さんの理解には、家庭で、地域でどんな暮らしをしているのか想像力を働かせなければなりません。学生時代、勉強は忙しいですが、人の心に沢山触れて視野を広げることも将来必ず役に立つと思います。

下野市は面白い街です。まだまだ素敵な出会いがありそうな予感がします。みなさん案内しますよ。遊びに来て下さいね。



写真は記念棟 13F から北側の眺望